

県立高等学校再編将来構想の具体化に向けた体制について

○ 中高一貫教育具体化検討部会

- ・ 第二次導入校に関する内容に限定して開催する。
- ・ 教育内容P Tは、テーマを探究学習重視型の教育内容と教育効果の測定に絞って開催する。探究学習重視型以外の教育内容等については、必要に応じて個別に有識者に助言を求める。
- ・ 入学者選考方法P T及び適正検査WGは、昨年10月に入学者選抜の日程等、12月にサンプル問題を公表し、役目を終えたことから廃止する。

○ 新しいタイプの定時制・通信制高校設置検討部会 及び 夜間中学設置検討部会

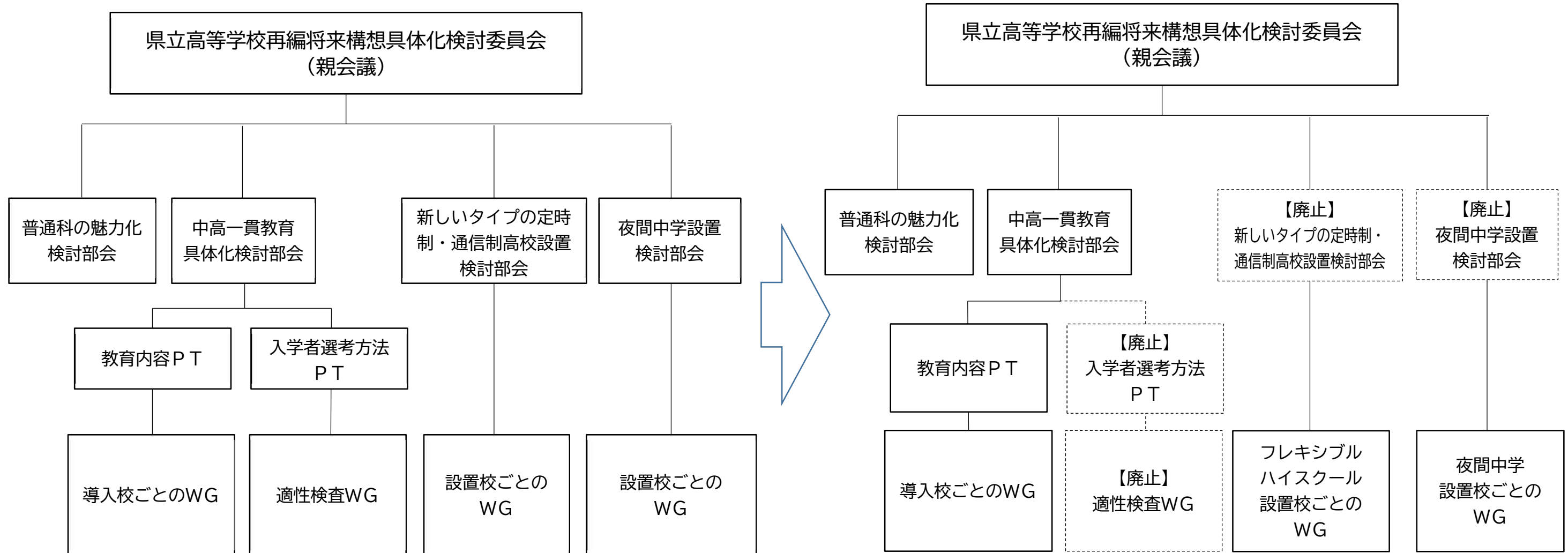
- ・ 昨年度中に学校の概要を固めることができたため廃止する。

○ 普通科の魅力化検討部会

- ・ 引き続き普通科高校の魅力化・特色化に向けた検討を行う。

【2023年度】

【2024年度】



中高一貫教育の導入（第二次導入校）に向けた検討事項

論点1 教育内容に関すること・・・2023年度第4回部会（1/26） 2024年度第1回部会（7月下旬）・第2回部会（9月下旬）

（1）探究学習重視型（豊田西・時習館・西尾）

（背景・基本的な考え方）

- 各校の特色を踏まえた探究的な学びを実現するための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 時習館・西尾は国際バカロレアの導入を目指す。

（2）高度ものづくり型（愛知総合工科）

（背景・基本的な考え方）

- 総合工科高校の充実した施設を活用した、AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出すための教育内容。
- 学校教育法施行規則において、中学校の標準授業時数は週29時間。
- 中高一貫校は、特例制度により、週29時間を超えて授業を実施することが可能。
- 併設中学校の卒業後は、理工科へ進学する。

【検討内容】（1）（2）共通

導入校の特色、教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）など。

（3）地域の教育ニーズ対応型・不登校を経験した生徒（日進）

（背景・基本的な考え方）

- 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成できる「学びの多様化学校」として設置。
- 他県の「学びの多様化学校」では、特例の教育課程として、授業時数を週29時間から7割程度に減らしたり、複数の教科を統合した教科を独自に設定したりしている。
- 併設中学校の設置と同時に、日進高校では不登校生徒に配慮した入学者選抜をスタートする。

【検討内容】

教育課程（総授業時間数、各教科の時間数）、日課表（登下校時間など）、不登校を経験した生徒への教育支援（少人数、個に応じた指導、オンラインの活用）など。

（4）地域の教育ニーズ対応型・外国にルーツのある生徒（衣台）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と衣台高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 衣台高校は外国人生徒選抜の合格者が多く、日本語指導が必要な生徒を全日制で最も多く受け入れている。また、東京外国語大学が文部科学

省からの委託により実施している、外国人生徒の日本語能力に関する調査・研究に協力している。

- 豊田市の中学校では、充実した母語支援が実施されている。

（5）地域の教育ニーズ対応型・地域を支える人材（美和）

（背景・基本的な考え方）

- 地元中学校と美和高校による連携型中高一貫教育を導入。
- 美和高校では、2021年度から地域連携のための組織「美和高マインド」を設置し、地元自治体や商工会等と連携した地域活動を実施。
- 2025年度、美和高校に地域探究科を設置予定。

【検討内容】（4）（5）共通

連携する中学校、中学校と連携する取組の内容

論点2 教職員配置に関すること・・・2024年度第1回部会（7月下旬） 第2回部会（9月下旬）

（1）併設中学校の教職員配置

（基本的な考え方）

- 中高一貫校の教育内容や生徒への支援の実施に必要な教職員を配置。

【検討内容】

開校初年度から学校完成時までの職種ごとの教職員の配置人数、教科別の教員数、中学校教員と高校教員の内訳

論点3 その他・・・2024年度第2回部会（9月下旬）

（1）外部人材の配置

（基本的な考え方）

- SCやSSW、キャリア教育コーディネーター、母語支援員、日本語教育支援員など、必要となる人材を配置する。

【検討内容】

配置する職種、体制

（2）併設中学校における入学者選抜

（基本的な考え方）

- 探究学習重視型の3校では、第一次導入校と同様に実施する。
- 愛知総合工科高校併設中学校では、適性検査を実施する。
- 日進高校併設中学校では、適性検査を実施しない。

（3）連携型中高一貫校における高等学校入学者選抜

- 美和高校・衣台高校では、連携型選抜を実施する。

【検討内容】

探究学習重視型以外の学校における入学者の決定方法

論点1 教育内容に関すること（第二次導入校）

1 第二次導入校（愛知県 中高一貫教育導入方針）

| 類型 | タイプ | 設置高校名・ 接続する学科 | 中学校 コース名 | 導入 形態 | 1学年 学級数・ 生徒数 |
|---------------------|--|---------------------|-------------------|----------|--------------------|
| 探究学習 重視型 | SSH実施校 | 豊田西 普通科 | 普通 コース | 併設型 | 2学級 80人 |
| | SSH実施校 ※国際バカロレアの導入を目指す | 時習館 普通科 | 普通 コース | | 2学級 80人 |
| | グローバル探究実施校 ※国際バカロレアの導入を目指す | 西尾 普通科 | 国際探究 コース | | 2学級 80人 |
| 高度もの づくり型 | AI・データサイエンスに興味・ 関心を持つ生徒の能力、可能性を 引き出す学校 | 愛知総合工科 理工科 | (仮称) 理工 コース | | 1学級 40人 |
| 地域の教 育ニーズ 対応型 | 不登校経験のある生徒の能力、可 能性を引き出す学校 | 日進 普通科 | 学びの多 様化学校 | 連携型 | 1学級 40人まで |
| | 外国にルーツのある生徒の能力、 可能性を引き出す学校 | 衣台 普通科 | — | | — |
| | 地域を支える人を育てる学校 | 美和 普通科・ 地域探究科 | — | | — |

2 各導入校の教育内容の主な特色（今回検討）

○は導入方針における導入のイメージ
⇒は各学校の主な特色(キーワード)

(1) 豊田西高校併設中学校

- SSHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。
- ⇒ 理数教育・国際理解教育の充実、体験活動から深める探究的な学び

(2) 時習館高校併設中学校

- SSHとAGHの活動をベースに、教科横断的で文理融合の探究的な学びに取り組む。
- ※ AGH（あいちグローバルハイスクール）：
文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の取組を継承した事業
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ 理数教育・国際理解教育の充実、国際バカロレア
- ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(3) 西尾高校併設中学校

- 地域を土台として世界を学び、「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点から、グローバルな探究学習に取り組む。
- ※ グローカル：グローバルとローカルを組み合わせた造語で、地球規模の視野で地域の課題について考えること
- 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
- ⇒ グローカルで探究的な学び、国際バカロレア

(4) 愛知総合工科高校併設中学校

- 工科高校の施設と教員を生かした中高一貫教育。
- 中学校段階からものづくりやAI・データサイエンスに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DXをリードする人材を育成。
- ⇒ 理工学の観点を取り入れた実践的で探究的な学び

(5) 日進高校併設中学校

- 年間総授業時間数を低減できる「学びの多様化学校（不登校特例校）」として設置し、不登校経験のある生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学ぶことができる中高一貫教育。
- ⇒ ゆとりある学び、生徒個々の状況に応じた支援、キャリア教育、社会性の育成
- ・ 高校について全日制学年制から全日制単位制へ改編

(6) 衣台高校

- 外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す連携型中高一貫教育。
- 日本語だけでなく母語にも配慮した授業。
- ⇒ 中高連携による異文化理解、多文化共生をテーマとした探究学習、キャリア教育

2024年度：連携教育の取組を開始

[連携中学校] 豊田市立保見中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

(7) 美和高校

- 地域での様々な活動を通して、地域を支える人を育てる連携型中高一貫教育。
- 地域の課題やニーズに対応した教育内容。
- 地域や大学等と連携したキャリア教育の推進。
- ⇒ 中高連携による地域に関する探究学習

2024年度：連携教育の取組を開始

[連携中学校] あま市立七宝中学校・七宝北中学校・美和中学校・
甚目寺中学校・甚目寺南中学校、大治町立大治中学校

2026年度：連携教育を受けた生徒が初めて高校に入学

フレキシブルハイスクール及び夜間中学の進捗状況について

1 フレキシブルハイスクール

フレキシブルハイスクールは、全日制・昼間定時制・通信制の3課程を一つの学校に設置することから、3課程それぞれの入試を行う必要がある。

従来と同じ日程で3課程の入試を行った場合、生徒の授業に支障をきたす恐れがあることから、現在、検討中である。

2 夜間中学

(1)各コースの教科ごとの授業時間数(案) (4校共通)

夜間中学では、これまでの学習状況や日本語能力に応じた5つのコースを設定して学習を進めるが、各コースの教科ごとの授業時間数は以下のとおりとする。

a. 学習状況(習熟度)に応じたコース

- 各教科の授業時間数は、夜間中学の年間授業時間数 700 時間(4時間/日×5日×35週)を、標準的な中学校の年間授業時間数 1,015 時間における各教科の授業時間数の割合で割り振って算出する。
- ただし、国語と数学については、より基本的かつ重要な内容であるため、算出した時間数より多く設定し、ほかの教科の時間数で調整する。

- a1. 中学校1年生相当のコース(小学校段階の学び直しを含む)
- a2. 中学校2年生相当のコース
- a3. 中学校3年生相当のコース

b. 日本語指導に重点を置いたコース

国語を日本語の授業とするほか、社会・理科の時間の一部を日本語の授業に充てる。

- b1. 日本語初心者から初級程度のコース
- b2. 日本語初級から中級程度のコース

〔愛知県立夜間中学の授業時間(案)〕

※上段は週当たり時間数、(下段)は年間時間数

| | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 音楽 | 美術 | 保健 体育 | 技術・ 家庭 | 外国 語 | 道徳 | 総合 | 特活 | 日本語 | 計 |
|----------|----|------------|---------------|------------|---------------|---------------|---------------|-----------|-----------|------------|-----------|----|----|------------|-------------|
| 学習 状況 | a1 | 4 (140) | 2 (70) | 4 (140) | 2 (70) | 0.5 (17.5) | 0.5 (17.5) | 1 (35) | 1 (35) | 3 (105) | 2 (70) | | | | 20 (700) |
| | a2 | 3 (105) | 2.5 (87.5) | 4 (140) | 2.5 (87.5) | | | | | 3 (105) | 2 (70) | | | | 20 (700) |
| | a3 | 3 (105) | 2.5 (87.5) | 4 (140) | 2.5 (87.5) | | | | | 3 (105) | 2 (70) | | | | 20 (700) |
| 日本語 | b1 | | 0.5 (17.5) | 3 (105) | 0.5 (17.5) | | | | | 2 (70) | 2 (70) | | | 9 (315) | 20 (700) |
| | b2 | | 0.5 (17.5) | 3 (105) | 0.5 (17.5) | | | | | 2 (70) | 2 (70) | | | 9 (315) | 20 (700) |

※ 技能教科の授業は、コースに関わらず、合同で実施する。

(2)とよはし中学校の進捗状況

ア 時間割(案)

- 夜間定時制高校と授業開始時間を合わせる。
- 給食(希望者に提供)は、食堂で夜間定時制高校生徒と一緒にとる。

| | 夜間中学 | (参考：夜間定時制) |
|-------|-------------|-------------|
| (給食等) | 17:00～17:35 | 17:00～17:35 |
| S T | 17:35～17:45 | 17:40～17:45 |
| 1 時間目 | 17:45～18:25 | 17:45～18:30 |
| 2 時間目 | 18:35～19:15 | 18:35～19:20 |
| 3 時間目 | 19:25～20:05 | 19:25～20:10 |
| 4 時間目 | 20:15～20:55 | 20:15～21:00 |
| S T | 20:55～21:00 | 21:00～21:05 |

イ 入学者の募集

- 入学希望者説明会を8月上旬頃、豊橋工科高校において開催予定

〔説明会内容(案)〕

- ・学校概要説明
- ・体験授業
- ・個別相談

- 9月下旬から12月中旬にかけて入学者募集を実施予定

普通科の魅力化に向けた検討の進め方について

1 昨年度の状況

部会を2回開催し、「探究的な学び」「コース制・普通科新学科」「中学校・中学生へのPR」を中心に検討を行った。



今後一段と生徒数が減少していく中で、一人一人の学びのニーズも多様化していることから、各高校が今後も子供たちに選ばれる学校であり続けるためには、「この高校に通えばこれが学べる、こういうことが経験できる。」といった特色を一層積極的に打ち出す必要がある。

[調査の内容]

- ・ コースを設置する高校に対する現況調査・・・5月
- ・ 「県立高校進学フェア」に来場する中学生・保護者に対するニーズ調査・・・8月

3 部会の開催時期

7月及び10月

2 今年度の検討事項

(1) 各高校の特色化を後押しする方策

検討のイメージ

- 特色ある取組事例を事務局で収集し、それらの取組のねらい、効果、課題などを整理して議論。
- 特色ある取組を効果的に発信している事例を事務局で収集し、対象者、手法などを整理して議論。

(2) コース制のあり方

普通科の魅力化・特色化への対応として導入を進めてきたコース制について、成果の検証とニーズの把握を行い、今後のコース制のあり方を検討する。

検討の内容

- コース制についての調査結果を踏まえ、以下の事項について議論する。
- コース制の成果と課題を踏まえた普通科の魅力化・特色化につながるコース制のあり方や設置コースについて
 - 中学生・保護者のニーズに応えるコース制のあり方や設置コースについて